

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500657

研究課題名（和文） 高齢者による自然体験活動支援が子どもと高齢者の心身の健康に及ぼす影響

研究課題名（英文） The support program for the children's activities in a natural environment offered by the senior volunteers and its influence on seniors and children's physical and mental health.

研究代表者

内田 勇人（UCHIDA HAYATO）

兵庫県立大学環境人間学部・教授

研究者番号：50213442

研究成果の概要（和文）：本研究は、高齢者（シニアボランティア）による自然体験活動支援プログラムが子どもと高齢者の心身の健康に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。分析の結果、自然体験活動支援プログラム後に子どもの自己効力感得点は上昇し（ $P<0.05$ ）、高齢者の精神的満足感と社会的ネットワークは向上していた。本プログラムの実施が、参加した子どもと高齢者の双方の心身の健康に有益な影響を与えうる可能性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：This study was to clarify the support program for the children's activities in a natural environment offered by the senior volunteers and its influence on seniors and children's physical and mental health. From the results of analysis, through engaging in the program, the scores of self-efficacy was significantly increased in children ( $P<0.05$ ), and mentally satisfaction and social networks were promoted in senior volunteers. This support program will have good potentials to improve the seniors and children's physical and mental health status.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：健康教育学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、応用健康科学

キーワード：高齢者、ボランティア、自然体験、子ども、心身、健康

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 子どもの心身の健やかな発達と健全な青少年の育成を目指して、子どもが自然体験活動を行う試みは、近年活発化している。国内においては、文部科学省スポーツ・青少年局青少年課により、平成 17 年度に農林水

産省、国土交通省といった省庁との連携のもと、子どもの自然体験活動の推進が図られ、「報告書：青少年の自然体験活動の充実に向けてー青少年の都市と農山漁村の交流活動推進に関する調査研究事業ー」としてまとめられた。平成 18 年度以降も継続的に実施さ

れ、平成 20 年度からは「青少年体験活動総合プラン」として発展している。最近は、これら活動の支援者として高齢者の参加が増えており、関心が高まっている。

しかしながら、これら自然体験活動が参加者である子どもや高齢者の心身の健康にいかなる影響を及ぼすのかについて明らかにした研究報告はみられず、特に子どもと高齢者が自然体験活動を通じて交流するといった視点から、彼らの心身にいかなる影響を及ぼすのかについては、ほとんど研究が行われていない。

国外においても同様であり、子どもや高齢者、障害者に対して自然体験活動を提供し、心理社会的機能に良い影響を与えているといった報告は数多くみられるものの、子どもと高齢者が自然体験活動の中で交わり、その効果について分析した報告はみられない。自然体験活動ではないが、高齢者が小学校教育へ参加することの意義を明らかにした研究として、アメリカ合衆国やイギリス等における「Experience Corps プロジェクト」がある (Fried et al, 2004, 2008)。

自然環境の中での子どもと高齢者の交流が、彼らの心身の機能にいかなる影響を及ぼし得るのかについて明らかにすることは、国内外ともに未だ十分な知見が得られていない現状から、緊急度が極めて高い先進的研究と位置づけられると考える。

## 2. 研究の目的

(1) 自然体験活動が子どもの心身へ及ぼす影響に関する基礎的資料を得る目的で、キャンプ活動への参加が子どもの精神的健康度、自己効力感、生活習慣、規範意識、友人関係に及ぼす影響について検討を行った。

(2) 子どもの心身の健やかな発達と健全な青少年の育成を目指して、子どもが自然体験活動を行う試みが、近年活発化している。こうした中、兵庫県神戸市・国営明石海峡公園神戸地区棚田ゾーン(栗林地区)において、日本ユニセフ協会と栗林地区に関わる個人、行政、大学、研究機関が連携し、「子ども参加型公園づくり・ユニセフパークプロジェクト (UPP)」を企画した。本研究では、UPP に参加した子どもの意識の変化をグループインタビューにより、明らかにすることを目的とした。

(3) A 市の小学校に通学する小学校 1 年生から 6 年生 (22 名)、及び同市内に在住する 70 歳以上の高齢男性 (3 名) に対して、自然体験活動 (兵庫県姫路市大釜地区の里山) を中心とした世代間交流事業を実施し、その効果について検討を行なった。また、小学 5・6 年生の児童を対象として、彼らが小学 2・3 年時に 2 年間にわたって受けたシニアボランティアによる小学校教育支援プログラムの

影響について検討した。

## 3. 研究の方法

(1) 研究参加者は、宿泊が伴うキャンプ活動に参加した小学 4 年生から中学 1 年生の男女 15 名 (男子 8 名、女子 7 名。以下キャンプ群) と某市立 A 小学校 4 年生から 6 年生の男女 145 名 (男子 61 名、女子 84 名。以下対照群) であった。調査は、指導者及び先生の指導のもと、自記式アンケート調査法により実施された。調査時期は、キャンプ事前、直後、1 ヶ月後の 3 回であった。調査項目は、先行研究を参考にして、「基本的属性」「自己効力感」「不定愁訴」「生活習慣」「規範意識」「友人関係」を採択した。対照群を、これまでのキャンプ経験をもとに、3 群に分類した。

(2) 参加者は、幼稚園児から小学校 6 年生までの 29 人 (男子 17 人、女子 12 人)、ファシリテーター (FA) 18 人 (中高齢者を含む社会人 7 人、大学生 11 人)、日本ユニセフ協会兵庫県支部員 6 人、保護者 8 人、スタッフ 8 人であった。プログラムの内容は、「オープニングプログラム」「ユニセフプログラム (日本ユニセフ協会兵庫県支部): ユニセフの活動」「水問題がもたらす世界の子ども達の現状・水問題に悩む世界の子ども達の現状」「水くみ・水運び体験」「公園づくりプログラム」「FA の指導でビー玉などを埋めた平板を児童が各自 1 枚作成」「クロージングプログラム」であった。プログラムの終了後、各プログラムについて、聞き取り調査を行った。

(3) 小学生に対しては「運動をする時間」「自然体験活動以外の屋外で遊ぶ時間」「高齢者イメージ」「不定愁訴」についてアンケート調査、高齢者に対しては「健康度自己評価」「日常生活行動」「運動習慣」「外出行動の実態」「転倒の有無」「役割感」「生きがい感」等に関する個別インタビューをそれぞれ実施した。また、研究参加者は小学校教育支援プログラムを受けた A 小学校 5・6 年生 70 名、教育支援プログラムを受けていない B 小学校 5・6 年生 120 名であった。両校の児童に対して、「SD 法による高齢者イメージ短縮版」「学校生活」、A 小学校の児童に対してのみ「小学校教育支援プログラムの思い出」について、自記式アンケート調査法により回答を求めた。

## 4. 研究成果

(1) 自己効力感の合計点について、キャンプ群の事前と直後、事前と事後の間に有意な差がみられ、他群では有意な変化はみられなかった。野外活動に参加し、自然生活を経験することは、子どもの自己効力感の向上に効果的であることが示唆された。不定愁訴出現率を 4 群間で比較したところ、キャンプ群の子どもたちは他の 3 群の子どもたちよりも、

各項目の不定愁訴出現率が低く、健康的な子どもは多いことが示唆された。各調査時期別に不定愁訴数平均値を4群間で比較したところ、事後においてキャンプ群と他の3群の間で有意な差がみられた。野外活動を経験することが子どもの不定愁訴の改善に結びつくことが示唆された。就寝時刻、起床時刻、朝食および夕食の摂取状況、友人関係については、各調査時期の間で変化はみられなかった。自然体験活動への参加が、子どもの自己効力感の向上と不定愁訴の抑制に影響を及ぼすことが示唆された。

(2) 参加した児童を4グループに分けて、グループインタビューを行った。質問1「楽しかったこと」は、「セメントの平板づくり。水を運んだこと。ゲームや踊ったこと。地元のご飯を食べたこと」、質問2「水と世界の子どもたちのいのちについて」は、「世界にそういう子どもたちがいることを知られてよかった。水を運ぶのが大変なのに、水がないと生きていけない。水があんなに汚かったら飲めない。自分たちにできることはないかと考えた」、質問3「公園の園路づくりに参加して」は、「難しかったけど、また作りたい。ビー玉を埋めるのが楽しかった。きれいな道になったらいいなと思った」等の回答が得られた。世代間交流を通じた自然体験活動が、子どもの環境に対する意識の変容に寄与し得ることが示唆された。

(3) 分析の結果(図)、自然体験活動・教育支援活動の前後で小学生児童の高齢者イメージは向上していることがわかった。高齢者においては、役割感、生きがい感が増していることが認められた。自然体験活動が子どもと高齢者の双方に良い影響を及ぼすことが示唆された。A小学校の児童の方がB小学校の児童より、有意に高齢者イメージは高かった( $P<0.05$ )。A小学校の児童に対して、高齢者イメージを「一般高齢者」と「シニアボランティア」に分けて回答を求めたところ、シニアボランティアの方が一般高齢者より「正しい」「忙しい」「はやく」「大きい」「強い」のイメージ得点が有意に高かった(各 $P<0.05$ )。

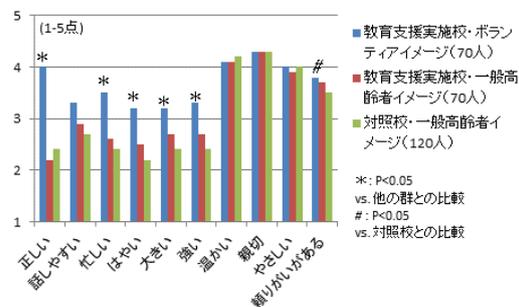


図 教育支援実施校と対照校との間における高齢者イメージ得点の比較

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

1. 内田 勇人, 藤原佳典, 西垣利男, 香川雅春, 作田はるみ, 下村尚美, 木宮高代, 濱口郁枝, 東根裕子, 矢野真理. 高齢者による育児支援活動が高齢者の心身の健康と母親の育児ストレスへ及ぼす影響. 日本世代間交流学会誌, 2(1), 33-39, 2012.2 (査読あり)
2. 桜井良太, 藤原佳典, 金憲経, 齋藤京子, 安永正史, 野中久美子, 小林和成, 小川貴志子, 吉田裕人, 田中千晶, 内田 勇人, 鈴木克彦, 渡辺修一郎, 新開省二. 温泉施設を用いた複合的介入プログラムの有効性に関する研究 無作為化比較試験による検討. 日本老年医学会雑誌, 48(4), 352-360, 2011.7 (査読あり)
3. 内田 勇人, 藤原佳典, 谷口和彦, 新開省二. 非拘束なモニタリングシステムによる見守り支援が介護スタッフに及ぼす影響. 老年社会科学, 33(1), 60-73, 2011.4 (査読あり)
4. 濱口郁枝, 内田 勇人, 奥田豊子, 作田はるみ, 大喜多祥子, 福本タミ子, 北元憲利. 女子大学生に対する味覚教育の実施が味覚能力に及ぼす影響. 小児保健研究, 71(2), 304-315, 2011.3. (査読あり)
5. 濱口郁枝, 安達智子, 大喜多祥子, 福本タミ子, 前田昭子, 内田 勇人, 北元憲利, 奥田豊子: “大学生の食生活に対する意識と行動の関係について” 日本家政学会誌 61(1). 13-24 (2010) (査読あり)
6. 濱口郁枝, 内田 勇人, 奥田豊子, 大喜多祥子, 福本タミ子, 北元憲利: “味覚能力と食生活との関連性に関する臨床的研究” 小児保健研究 69(5). 676-684 (2010) (査読あり)
7. 藤原佳典, 渡辺直紀, 西真理子, 大場宏美, 李相侖, 小宇佐陽子, 矢島さとる, 吉田裕人, 深谷太郎, 佐久間尚子, 内田 勇人, 新開省二: “高齢者による学校支援ボランティア活動の保護者への波及効果-世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム“REPRINTS”から-” 日本公衆衛生雑誌 57(6). 458-466 (2010) (査読あり)
8. Kagawa M, Uenishi K, Mori M, Uchida H, Kerr DA, Binns CW, Hills AP: “Obesity screening for young Japanese males and females using skin fold measurements: the classification revisited” Asia Pac J Clin Nutr 19(2). 289-293 (2010) (査読あり)
9. Hayato Uchida, Kazuhiko Taniguchi,

- Tomoyuki Sawayama, Yutaka Hata, Yoshinori Fujiwara, Shoji Shinkai, Toshio Nishigaki, Hideki Toji, Kaori Araki: "The impact of introducing an unconscious and unrestrained monitoring system on the workload of the care staffs in the nursing home" Proceedings of World Automation Congress, Kobe. (2010) (査読あり)
10. 作田はるみ, 坂本薫, 小泉弥栄, 橘ゆかり, 奥田豊子, 北元憲利, 内田勇人: "在宅で生活する知的障害者の肥満とメタボリックシンドロームの状況-年齢群間による比較-" 肥満研究 15(1). 53-58 (2009) (査読あり)
  11. Hayato Uchida, Hayato Yamaguchi, Shoji Kobashi, Yutaka Hata, Naoki Tsuchiya, Hiroshi Nakajima: "Fuzzy Estimation System of Dementia Severity Using Biological Information During Sleep" Proceedings of 18th IEEE International Conference on Fuzzy Systems. 921-926 (2009) (査読あり)
- [学会発表] (計 38 件)
1. Hayato Uchida, Yoshinori Fujiwara, Shoji Shinkai, Toshio Nishigaki, Shinro Matsuura, Jiro Kuroda, Teiji Okamoto. The Educational Support Program in Elementary School for the Children Offered by the Senior Volunteers and its Influence on Children's Images of the Elderly. 64th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America, Boston, USA. 2011.11
  2. Hayato Uchida, Yoshinori Fujiwara, Shoji Shinkai, Yukari Yamashita, Yuko Hori, Toshio Nishigaki, Hideki Toji, Yasunori Hasegawa. The risk level of frailty in Japanese elderly women and its related factors. 64th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America, Boston, USA. 2011.11
  3. 内田勇人, 藤原佳典, 新開省二, 山口幸一, 作田はるみ, 下村尚美, 木宮高代, 濱口郁枝, 東根裕子, 矢野真理. シニアボランティアによる小学校教育支援事業が児童の高齢者イメージに及ぼす影響. 第70回日本公衆衛生学会総会抄録集 Page307, 秋田, 2011.10
  4. 村山陽, 藤原佳典, 大場宏美, 西真理子, 李相侖, 小宇佐陽子, 安永正史, 野中久美子, 佐久間尚子, 深谷太郎, 吉田裕人, 内田勇人, 新開省二. 世代間交流の視点から見た交流効果の検討 世代間交流プログラム REPRINTS-1. 日本公衆衛生学会総会抄録集 Page306, 秋田, 2011.10
  5. 佐久間尚子, 藤原佳典, 呉田陽一, 安永正史, 鈴木宏幸, 大場宏美, 西真理子, 李相侖, 小宇佐陽子, 石井賢二, 内田勇人, 新開省二. 質問紙調査からみた高齢者の認知機能 世代間交流プログラム REPRINTS-2. 日本公衆衛生学会総会抄録集 Page306, 秋田, 2011.10
  6. 鈴木宏幸, 佐久間尚子, 藤原佳典, 呉田陽一, 安永正史, 大場宏美, 小宇佐陽子, 石井賢二, 内田勇人, 新開省二. 語想起課題の生成語からみる3年間の介入効果 世代間交流プログラム REPRINTS-3. 日本公衆衛生学会総会抄録集 Page307, 秋田, 2011.10
  7. 矢野真理, 内田勇人, 山口幸一, 作田はるみ, 藤原佳典, 新開省二 地域在住高齢女性における介護予防に関する研究 抑うつと外出行動に着目して. 日本公衆衛生学会総会抄録集 Page300, 秋田, 2011.10
  8. 山口幸一, 内田勇人, 矢野真理, 作田はるみ, 藤原佳典, 新開省二 地域在住高齢女性における介護予防に関する研究 要介護化リスクの関連要因. 日本公衆衛生学会総会抄録集 Page300, 秋田, 2011.10
  9. 作田はるみ, 尾ノ井美由紀, 米倉裕希子, 内田勇人, 奥田豊子, 北元憲利. 幼児期の知的障害児における肥満の実態と食生活. 第32回日本肥満学会 17 巻 Suppl. Page178, 兵庫, 2011.9
  10. Hayato Uchida, Masaharu Kagawa, Toru Takahashi, Satomi Maruyama, Tomoko Imai. Prevalence of abnormal eating attitudes in Japanese female university students and its related factors. XI Asian Congress of Nutrition, Singapore, 2011.7
  11. 田中千晶, 藤原佳典, 安永正史, 齋藤京子, 桜井良太, 金美芝, 金憲経, 内田勇人, 荒木厚, 渡辺修一郎. 温泉利用型健康増進施設を活用する複合健康増進プログラムが及ぼす日常の身体活動量への効果. 第53回日本老年医学会学術集会, 日本老年医学会雑誌 48 巻 Suppl. Page116. 2011.6
  12. Hayato Uchida, Kazuhiko Taniguchi, Tomoyuki Sawayama, Yutaka Hata, Yoshinori Fujiwara, Shoji Shinkai, Toshio Nishigaki, Hideki Toji, Kaori Araki: "The impact of introducing an unconscious and unrestrained monitoring system on the workload of the care staffs in the nursing home" World Automation Congress, Kobe. (20100900). Kobe International Conference Center, Kobe, Hyogo, Japan

13. Hayato Uchida, Yoshinori Fujiwara, Shoji Shinkai, Toshio Nishigaki, Shinro Matsuura, Harumi Sakuda: "The Educational Support Program in a Japanese Elementary School Offered by the Senior Volunteers and its Influence on Children's School Life -The Results of Two-Year Follow-up Surveys-" 63rd Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America. (20101100). Hilton Hotel New Orleans Riverside, New Orleans, Louisiana, USA
14. 藤原佳典, 齋藤京子, 金憲経, 吉田裕人, 内田勇人, 小川貴志子, 荒木厚, 渡辺修一郎, 新開省二: "温泉利用型施設を活用する総合健康プログラムの開発生活習慣病予防" 第52回日本老年医学会総会. (20100600). 神戸国際会議場, 兵庫県
15. 齋藤京子, 藤原佳典, 金憲経, 吉田裕人, 内田勇人, 小川貴志子, 荒木厚, 渡辺修一郎, 新開省二: "温泉施設を活用する総合健康プログラムの開発介護予防" 第52回日本老年医学会総会. (20100600). 神戸国際会議場, 兵庫県
16. 内田勇人, 藤原佳典, 新開省二, 松浦伸郎, 作田はるみ, 山口幸一: "中・高齢者による小学校教育支援活動に関する研究;2年後の追跡調査結果" 第52回日本老年社会学会大会. (20100600). あいち健康プラザ, 愛知県
17. 鈴木宏幸, 佐久間尚子, 呉田陽一, 安永正史, 大場宏美, 西真理子, 小宇佐陽子, 櫻井良太, 内田勇人, 藤原佳典, 新開省二: "世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム"REPRINTS"語想起課題からみる介入3年間の言語機能・実行機能への効果" 第52回日本老年社会学会大会. (20100600). あいち健康プラザ, 愛知県
18. 内田勇人, 藤原佳典, 津田主税, 浅野房世, 荒木香織, 西垣利男, 田路秀樹, 作田はるみ, 山口幸一: "子ども参加型公園づくり・ユニセフパークプロジェクトの試み" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
19. 大場宏美, 藤原佳典, 西真理子, 李相侖, 小宇佐陽子, 安永正史, 矢島さとる, 佐久間尚子, 深谷太郎, 内田勇人, 新開省二: "世代間交流プログラム REPRINTS 参加高齢者のソーシャルキャピタル" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
20. 佐久間尚子, 呉田陽一, 鈴木宏幸, 安永正史, 大場宏美, 小宇佐陽子, 石井賢二, 内田勇人, 藤原佳典, 新開省二: "世代間交流プログラム REPRINTS 高齢者の認知機能に与える3年間の継続効果" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
21. 鈴木宏幸, 佐久間尚子, 呉田陽一, 安永正史, 大場宏美, 小宇佐陽子, 石井賢二, 内田勇人, 藤原佳典, 新開省二: "世代間交流プログラム REPRINTS 語想起課題における生成語の時間的推移" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
22. 田中千晶, 藤原佳典, 安永正史, 齋藤京子, 金憲経, 深谷太郎, 野中久美子, 桜井良太, 小林和成, 吉田裕人, 内田勇人, 岡部たづる, 干川なつみ, 土屋由美子, 新開省二: "温泉施設を活用した複合的介入プログラム"すぷりんぐ"日常身体活動量への影響" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
23. 山口幸一, 内田勇人, 藤原佳典, 深谷太郎, 金憲経, 齋藤京子, 桜井良太, 安永正史, 小川貴志子, 鈴木克彦, 作田はるみ, 下村尚美, 松浦伸郎: "温泉施設を活用した複合的介入プログラム"すぷりんぐ"中高年労働者への効果" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
24. 安永正史, 藤原佳典, 渡辺直紀, 大場宏美, 西真理子, 李相侖, 矢島さとる, 小宇佐陽子, 佐久間尚子, 深谷太郎, 吉田裕人, 村山陽, 内田勇人, 新開省二: "世代間交流プログラム REPRINTS 交流による児童の高齢者イメージの変容" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
25. 下村尚美, 作田はるみ, 内田勇人, 松浦伸郎, 北元憲利: "小学生の不定愁訴に関する研究 14年前の調査結果と比較して" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
26. 濱口郁枝, 内田勇人, 奥田豊子, 大喜多祥子, 福本タミ子, 作田はるみ, 北元憲利: "大学生に対する味覚教育の実施が味覚能力に及ぼす影響" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
27. 東根裕子, 宮本邦彦, 名村靖子, 奥田豊子, 内田勇人, 北元憲利: "幼児の食生活・食行動に関する研究 料理の手伝い行動に着目して" 第69回日本公衆衛生学会総会. (20101000). 東京国際フォーラム, 東京都
28. Takayo Kimiya, Kazuko Hashimoto, Hideki Toji, Hayato Uchida: "Study of disaster consciousness among nursing

- student in Japan” The 1<sup>st</sup> Research Conference of World Society of Disaster Nursing. (20100100). Kobe, Japan
29. Hayato Uchida, Yoshinori Fujiwara, Shoji Shinkai, Toshio Nishigaki, Sinro Matsuura, Harumi Sakuda, Naomi Shimomura: “The Educational Support Program in a Japanese Elementary School Offered by the Senior Volunteers and its Influence on Children’s School Life” First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education. (20090700). Makuhari, Japan
  30. Hayato Uchida, Hayato Yamaguchi, Shoji Kobashi, Yutaka Hata, Naoki Tsuchiya, Hiroshi Nakajima: “Fuzzy Estimation System of Dementia Severity Using Biological Information During Sleep” 18th IEEE International Conference on Fuzzy Systems. (20090800). Jeju Island, Korea
  31. Hayato Uchida, Yoshinori Fujiwara, Kazuhiko Taniguchi, Shoji Shinkai: “The unconscious and unrestrained monitoring system and its influence on the care staff and the institutionalized elderly persons” The Gerontological Society of America’s 62nd Annual Scientific Meeting. (20091100). Atlanta, USA
  32. Hayato Uchida, Yoko Kuwada, Toshio Nishigaki, Hideki Toji, Setsuko Ino, Kaori Araki, Kensaku Suetani: “The influence of life review intervention on cognitive function and activities of daily living in elderly women requiring long-term care” The Gerontological Society of America’s 62nd Annual Scientific Meeting. (20091100). Atlanta, USA
  33. 内田 勇人, 松浦伸郎, 西垣利男, 藤原佳典: “高齢者による小学校教育支援活動が児童と高齢者の心身の健康に及ぼす影響” 第1回日本心身医学関連5学会合同集会. (20090500). 東京
  34. 内田 勇人, 藤原佳典, 谷口和彦, 新開省二: “無意識かつ非拘束なセンシングシステムによる見守りの実現 介護スタッフおよび入所者に及ぼす影響” 第51回日本老年社会科学大会. (20090600). 横浜
  35. 佐久間尚子, 呉田陽一, 伏見貴夫, 大神優子, 鈴木宏幸, 安永正史, 石井賢二, 内田 勇人, 藤原佳典, 新開省二: “世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム “REPRINTS” 認知機能評価の5年目の報告” 第51回日本老年社会科学大会. (20090600). 横浜
  36. 安永正史, 佐久間尚子, 呉田陽一, 伏見貴夫, 鈴木宏幸, 大場宏美, 矢島さとる, 石井賢二, 内田 勇人, 藤原佳典, 新開省二: “世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム “REPRINTS” 高齢者の知的ボランティア活動の知的活動習慣への影響” 第51回日本老年社会科学大会. (20090600). 横浜
  37. 鈴木宏幸, 佐久間尚子, 内田 勇人ほか: “世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム “REPRINTS” 語想起課題における生成項目の頻度からみる言語機能への介入効果” 第51回日本老年社会科学大会. (20090600). 横浜
  38. 内田 勇人, 藤原佳典, 谷口和彦, 新開省二: “非拘束な見守りセンサーの導入が入所者の生活および介護スタッフの心身に及ぼす影響” 第68回日本公衆衛生学会総会. (20091000). 奈良
- 〔図書〕 (計3件)
1. 内田 勇人. 第10章 医療・介護関連の市場『スポーツビジネス概論』(黒田次郎・遠藤利文他), 叢文社(東京), 111-121, 2011.3
  2. 内田 勇人: “世代間交流学の創造-無縁社会から多世代間交流型社会実現のために-” あけび書房(東京). 242 (2010)
  3. 黒田次郎, 内田 勇人, ほか: “第4章 より幅広い市場へ 健康フィットネス産業の動き, 図解入門スポーツビジネスの動向とカラクリがよくわかる本” 秀和システム. 236 (2010)
- 〔その他〕  
ホームページ等  
<http://www.shse.u-hyogo.ac.jp/uchida/>
6. 研究組織
    - (1) 研究代表者  
内田 勇人 (Uchida Hayato)  
兵庫県立大学・環境人間学部・教授  
研究者番号: 50213442
    - (2) 研究分担者  
西垣 利男 (Nishigaki Toshio)  
兵庫県立大学・環境人間学部・教授  
研究者番号: 20057376  
桑田 陽子 (Kuwada Yoko)  
兵庫県立大学・環境人間学部・准教授  
研究者番号: 20083058